

日本語、中国語、英語における呼称の対照研究

陶 琳

1. はじめに

日本語、中国語、英語に見られる丁寧表現は文化の点でも、言語形式の点でも、あるいは使い方の点でも、いずれにあっても独特な性質を有している。文化と言語が異なる日本、中国、英語圏において、「丁寧さ」の発想と表現が相違のあるのは当然である。しかし同質で同等と言える面もある。小論では、主として日本語、中国語、英語の呼称を対照することにより、発想と表現の両面から、「丁寧さ」というカテゴリーの一般性、即ち日本語、中国語、英語の三言語に共通して見られる基本的な性格・原則、として個別言語における特殊性、つまり日本語、中国語、英語の三言語のそれぞれに見られる独特な性格・用法について検討する。

日本語、中国語、英語ともに呼称は丁寧表現の中で大きな位置を占めている。同じ人物でも、性別、年齢、名前、身分、職業、血縁関係、親密度等によって、呼び方・呼ばれ方が異なってくる。また言語文化が違えば、その社会的背景や文化・習慣によって、異なった呼称の体系が存在する。日本語では鈴木 (1973)、国広哲弥 (1990)、田窪 (1997) 等の研究がある。英語では Brown & Ford (1964)、Braun (1988) 等の研究がある。中国の場合は現代では遼永順 (1985)、祝曉瑾 (1990) 等の研究がある。日英の対照研究では大杉邦三 (1982)、井出 (1982)、田中春美・田中幸子 (1996) 等の研究がある。日中の対照研究では蘇徳昌 (1982)、陳露 (2002) 等の研究がある。中英の対照研究では、賈玉新 (1997) 等の研究がある。日・中・英語の対照研究では、ト雁の親族呼称の虚構的用法に関する研究があるが、本研究では、丁寧表現の観点から日本

語、中国語、英語の呼称を中心に引き上げ、種類別にそれぞれの呼び方を対照しながら、呼称の共通点と相違点を明らかにする。

2. 日本語、中国語、英語の呼称

呼称の方略について、Braun (1988) は呼び方三分類：① 代名詞による呼び方 (Pronouns of address)；② 動詞形の呼び方 (Verb forms of address)；③ 名詞による呼び方 (Nouns of address) を引き上げた。日本語と英語の呼び方について、田中春美・田中幸子(1996：114-123)は、名詞によるもの 11 項目を含む計 13 種類の呼び方を引き上げた。ここでは、様々な先行研究の分類を踏まえ、日本語、中国語、英語を中心に、16 種類の呼び方を検討する。

2.1 人称代名詞(Pronouns of address)

2.1.1 日本語の人称代名詞

日本語は、特に人を指す場合多様な選択肢があり、代名詞の使用はあまり好まれない。二人称、三人称は目上の人には使わない。その人の名前・役職名・職業名などを繰り返すほうが好まれる。それにもかかわらず、一人称と二人称の表現方法は多い。日本語では二人称では、貴方様(がた)・こちら様・そちら様、お宅様、貴殿・貴方・貴兄・大兄・君・お前・貴様(たち、ら)等、極めて多くの表現が用いられ、三人称も多種多様である。

改まった場合で使われる人称代名詞は、男女共通である。しかし、女性専用の呼称は少ないのに、なぜ男性専用の呼称はこのように種類が多いのだろうか。

表 1 日本語、中国語、英語の人称代名詞

	言語	敬語	女性使用	男女とも使用	男性使用
1 人称	日本語	わたくし(謙称) 私ども(謙称)	あたし、 うち	私・わたくし・私ども・ 私たち、おれ	ぼく・おれ・おいら・ わし
	中国語	我们(謙称)	なし	我・我们・咱们	なし
	英語	We(謙称)	なし	I・we	なし
2 人称	日本語		あんた	あなた、「自分」	きみ・おまえ・貴様
	中国語	您・您们	なし	你・你们	なし
	英語	Thou(昔)	なし	You・You	なし
3 人称	日本語		彼女	彼ら	彼
	中国語	Tan(昔)	她	他们	他
	英語		She	They	He

「わたくし」は男女ともに敬遠のために用いられ、「あたし」が女性の親密の表現として用いられる。「おまえ」は「おれ」と同様、男同士で使われる親密表現であると同時に、上位者の威厳を表わす敬遠表現でもある。他の相手との距離を引き離したい時には、「あなた」の代わりに「姓+敬称」、「姓+称号」が使われる。なお、恋人間、夫妻間で使われる「あなた」、「きみ」、「おまえ」については、いずれも特殊な親密表現である。

「私ども」は「私たち」を謙譲に表現する語である。「私どもは…」という方が自らをへり下って表現する敬遠表現である。

2. 1. 2 中国語の人称代名詞

現代の中国語では、二人称には“你”のほかに“您”と言う敬語がある。年長者や目上、初対面の相手に対して“您”と言う。しかし、目下、同僚にも“您”と言うことがある(尊重を強調する)。生徒が先生に、或いは子供が両親に“你”を使うこともできる。“您”は元々北京方言で、現在、敬語として広く中国全土で使われるようになった。“您”の複数形“您们”は手紙にのみ用いられる。話し言葉では“您”の複数はやはり“你们”を使う。或いは“您二位”、“你们二位”(あなた方お二人)などのように言わなければならない。親しい関係でありながら“您”を使えば却ってよそよそしい感じになることは言う

までもない。現代語でも、二人称の尊敬は、“閣下”、“先生”、“尊兄”、“仁兄”、“老兄”、“大姐”などがあるが、相手が単数の場合に用いる。

二人称の敬語には、このほか“您老”、“您老人家”(あなたさま)、“他老人家”(三人称あのお方)があり、年配者等に対して使われる。

これらを活用すれば、聞き手の行為について、“你吃吧。”(食べなさい)に対し“您用餐吧。”(お召し上りください)と、動詞は“吃”の代わりに“用餐”で敬意がこもる。一人称は“我”より“我们”(謙譲の意)の方が丁寧である。

2. 1. 3 英語の人称代名詞

英語にも、色々の尊称や敬称がある。“Your”が使われる表現はそれを“His/Her/Their”に替え、その他のものはそのまま第三人称的敬称に用いるものもある。例えば“Your Majesties” 両陛下、“His Majesty” (the Emperor) (皇帝) 陛下、“His Britannic Majesties” 英国王陛下、“His (Her) Most Gracious Majesty” 国王(女王) 陛下などは王・女王・皇帝・天皇・皇后・皇太后などに対する敬称である。「閣下」にあたる“Your Excellency”、“His (Her) Excellency” (間接に指して)、“Their Excellencies”(間接に2人以上を指して)などは総督・大臣・大使・知事・大司教・司教のような高官・高僧に対する敬称である。ほかに、“Your Highness” (殿下)、“Your Holiness”(聖下—ローマ法王に対して)等の呼び掛け尊称、敬称がある。

英語の人称代名詞 *you* の役割は微妙である。

「一般に内容を相手に関心があり、利益になり、喜ばれるような構文にすることは手紙でも談話でも『敬意的』になるばかりでなく、相手が自分の希望する方法に心理的に影響される可能性を作る、これは商業英語で教わる“you”attitude の考え方であって、*you* や *your* や *yours* を文頭や文中の重要な場所においたりするのも、その手法の一つである。」(大杉邦三の『英語の敬意表現』(1985 : 51-52))

(1) “*You are cordially invited to a reception to be held on ...at...*” (上掲書p.52)

(1)は“*We cordially invite you to a reception to be held on ...at...*”より「何月何日どこそこで開催のレセプションに貴台を心からご招待申し上げます」

の内容を「敬意的」に伝える。

内容が相手に好まれない事柄の場合には、例えば見学者を案内するとき、(2)のように you を文頭に置く表現を用いない。その代わりに、(3)のように言う。

(2) *"You are not supposed to smoke here."* (上掲書 p.52)

(3) *"Ladies and gentlemen, this is a non—smoking area."* (上掲書 p.52)

you を格納した「ここでは禁煙です。」をずっと「敬意的」に伝えることになる。your や yours についても同様である。また(4)は you が全くない、*"What do you want?"* より、*"is there"* より *"will there be"* の方がいっそう丁寧である。

(4) *"Will there be (Is there) anything else, sir(ma'am)?"* (上掲書 p.51)

We を I や you の代わりに使うと「敬意的」なることがある。医師が入院患者に(5)のように容態を聞くのは、you を使った普通の聞き方より「敬意的」で、患者の苦しみを分かち合う気持が出ている(hospital "we")。

(5) *"How are we feeling this morning, Mrs. Hill?"* (ヒルさん今朝はいかがですか) (上掲書 p.52)

また親や教師が小さい子供に対して、(6)のように言うのは *"Now, you must be a good boy."* より子供と境遇をともして改善しようとする気持があらわれている(paternal "we")。

(6) *"Now, we must be a good boy."* (さあ良い子になるんだよ。)

(上掲書 p.52)

国際学会等で演者がスライドを使つての講演中、電灯を点けてもらいたい時、(7)のように表現するのは、I より「聴衆とともに」と言う連帯感があって「敬意的」になる(modest "we")。

(7) *"May we have the lights (on) please?"* (電灯をお願いします)

(上掲書 p.52)

ところで、You と「あなた」と“您”は同じではない。「あなた」には人間関係や場面による大きな制約が伴うので、敬称としてはあまり使われない。同時に、you と「あなた」には頻度の違いもある。でも中国語の“您”は一番

丁寧であり、敬語である。

また、相手の所有所属に関する表現も、英語は“your, his, her, their”で表わすが、中国語は“您的, 他的, 她的, 他们的”で表す。日本語では、敬語表現の対象として、「お・ご」などの接頭語を付けるか、その他の語彙的配慮の対象となる。中国では聞き手に属する事物についても、“您的父亲”(お父上)、“您的意见”(ご意見)、“您的帽子”(お帽子)等、“您”だけで敬語表現が示せる。

2. 2 指示代名詞

中国語では、敬意を持って人を数える量詞“位”がある。指示代名詞も、人間を指し示す場合の量詞“位”とむすべば、“这位”(此の方)、相手が複数の場合には“诸位”(皆さん)、“各位先生”(皆さん(方))、“这位是李先生。”(この方は李さんでいらっしゃいます。) のように敬意が表わせる。例えば同様に人間を指し示す量詞“个”と比べると、“个”を使った“三个客人”は「三人の客」という意味になる。“位”を使った“三位客人”は「三人のお客さん」という意味になる。

日本語では、こちら、そちら、あちら等の指示代名詞は、この人、この人達、より丁寧である。英語では、中国語、日本語のような指示代名詞の丁寧な言葉は存在しない。

2. 3 名前或いは個人名(Personal Names)

日本語、英語、中国語ともに呼称は丁寧表現で大きな位置を占めている。個人名は、呼び方の基本となる形である。しかし、この呼び方の体系は言語によって異なる。日本語、中国語では「姓+名 (LN+FN)」の順に呼ばれるのに対して、英語では「FN+LN (名+姓)」と逆である。

2. 3. 1 日本語の名前の呼称

日本語の場合、敬称の「様・さん・殿(書き言葉)」など、敬意の程度による区別があるが、現在はかなり単純化している。「陛下」、「閣下」など特殊なものも簡易化されており、また話し言葉ではあまり使われなくなった。

但し皇族に属する人を「一宮様」と呼ぶ習慣などはまだ残っている。日本語の名前の呼称には次の種類がある。

- ①姓+敬称(様、さん)
- ②姓+称号(教授、市長、先生)
- ③姓(呼び捨て)
- ④名+敬称(様、さん)
- ⑤名+称号(先生)
- ⑥名(呼び捨て)

①②④⑤などの呼び方は尊敬を表す。上司から部下、先生から学生に対しては姓+さん、くんで呼びかけることは、一般に知られている。「姓のみの呼び方は日本語では仲の良い友人間で親密表現に、或は目上の人が部下に使う敬遠表現になる」(井出(1982 : 116))。

2.3.2 中国語の名前の呼称

① 姓+名 (LN+FN)

一般に友人や同僚の間では、姓名をそのまま呼び捨てにすることが多い。日本人は名前だけの呼び捨ては気になるらしいが、中国人がお互い気軽にフルネームで呼び合ったりする光景は、年長者が世代また親族関係で目下の者に対して、或は親友や同級生や仲間(夫婦も含む)同士の間ではよく見られる。しかし、第三者の他人に対しては決してありえない。

② 名

ごく親しい関係になれば、姓を省き、名前だけを呼んでも良いが、一音節(一字)の姓や名前などの場合は単独で用いることができない。例えば“陈丽”という名前の場合、“小丽”、“丽”と呼ぶのは親か、或は夫婦、恋人の間でしかない。目上の人や先生は、目下の人や学生に姓+名で呼び掛けることができるが、目下の人や学生は目上の人や先生に名前で呼びかけることは失礼なことである。

③ 姓+敬称 例えば：“陈先生”、“李老”等

④ 姓+称号(職稱) 例えば：“李司令员”(李司令官)、“李会计师”(李会

計士)、“王总工程师”(王技師長)、“赵部长”(趙部長)等

- ⑤ **姓+職業** 例えば：“李厨师”(李コック)、“李老师”(李先生)、“张大夫”(張先生(医者))等

③、④、⑤は正式の場合にはよく用いる。親しみを表すと同時に尊敬を表わす丁寧な言い方になる。中国ではこのように相手の名を呼ぶことがあいさつや敬語の代わりになる場合が多い。

- ⑥ **名+敬称** 例えば：“小平同志”、“恩来同志”等

これは地位が殆ど同程度の間で用いて、尊重を表わすだけではなく、もっと親しみを込めている意味も表わされる。しかし、年下の人や部下が、目上の人や年長の方、或いは上司に対してこのような呼称を使うことは尊重にはならず、失礼にあたる。

- ⑦ **姓+名+敬称** 例えば：“李文老师”(李文先生)、“张品大夫”(張品医者)等

- ⑧ **老(小・大)+姓** 例えば：“老李”、“小张”、“大张”等

- ⑨ **名+職業** 例えば：“英华大夫”(英華医者)等

「名+職業」は「姓+職業」より親しみを表す。“英华大夫”(英華医者)は“陈大夫”(陳医者)より親しみを表す丁寧な言い方である。日本の場合は①職業名(運転手)、②職業名+敬称(運転手さん)の呼称もある。

また、日本の会社では会社以外の人に対して社員等が「田中は、本日あいにく出張しております」等、部長を呼び捨てにするが、英語圏の秘書は客に対して、“I’m sorry but Mr. Smith is away on business today.”等と敬称を用いる。

中国でも、やはり、“对不起，今天不巧部长不在。”(すみません、本日あいにく部長は出張中でございます)と敬称を用いる。

2. 3. 3 英語の名前の呼称

英語の場合、John, Maryなどと first name で呼ぶのではなく、last name (姓)に Mr., Ms., Miss (最近では Ms)などを付けることによって尊敬を表す。

① Title + Last Name

称号として使われるものに Professor, Dr., President, General, Colonel のよ

うに職業に関するものと Mr., Mrs., Miss それに Miss と Mrs の両方に使えるようになったウーマン・リブの所産 Ms.など敬称がある。

② Last Name

Last name は first name で呼ぶほど親しくはないが、敬称をつけるほど丁寧にする必要のない時に用いられる。アメリカの学生は大学の教授を呼ぶのに Mr.+last name と言うことが多い。

③ First name or Nicknames

First name あるいは Nicknames は最も一般的に呼ばれる形である。形式的でなく、中味で親しく暖かい人間のふれあいを大事にする人々によってよく使われる呼び方である。

④ Sir, Ma'am, Miss, Madam

これはまず相手の名前を知らない場合に使われる呼び方であるが、相手の名前を知っていて尊敬の念をもって呼びかける時にも使われるものである。特に上位者を認識するとき、又一番距離が大きい時使われるものである。

職場などで上司に向かって Mr. や Ms. をつけ、逆に上司が部下に対して First name (ときには last name で呼び捨て) で呼びかけることは、一般に知られている。

2.4 身分による区別の敬称(Mr.,Ms. forms)・称号(Titles)

敬称は個人名や親族用語名の語頭や語尾について用いられることが非常に多い。日本語では人に対する呼称は「閣下・殿・社長・教授・先生・様・さん・氏・君」など、多種多様である。呼称と接尾語によって尊敬の意味も違う。この点については中国語、英語も同じである。英語には日本語、中国語ほど尊称や敬称の種類はない。称号とは、日本語では「先生」、「部長」、「市長」等を、中国語では“先生”、“部长”、“市长”等を英語では Doctor, President, Mayor や Count (伯爵)、Duke (公爵)等の呼び方を指している。

称名は敬称と違って殆どの場合、単独でも使うことができるという性質がある。英語では、「称号+名前」の形がよく用いられる傾向にあるが、日本語では、「称号のみ」の形が多く現れる。最近、会社の中には民主化を促進する

ものとして、「田中部長」や「林課長」などの称号を使わず、「田中さん」や「林さん」いった敬称を使おう、という取り決めをしているところもある。「先生」も「さん」と呼ぶこともある。

しかし、中国では、「先生」、「陳部長」（陳部長）、「王市長」（王市長）、「張書記」（張書記）、「李总工程师」（李総工程師）、「陶司令員」（陶司令官）を使わないと失礼にあたる。中国語における敬語では古今を問わず、相手をどのように呼ぶかと言う呼称の問題に大きな比重がおかれる。あまり親しすぎる呼び方をしたり、また尊敬しすぎたりする呼び方をすると相手の誤解を招くことになる。これも中国語における敬語の一つの特色であろう。

旧中国では、社会における身分の高低貴賤の区別に応じ、使用人と主人、平民と役人、貧乏人と金持ち等、尊卑を使い分けて呼ばねばならなかった。男性に対して“先生”(さん)、“老爺”(旦那様)、“少爺”(坊ちゃん)と呼び、女性に対して“太太”(夫人)、“女士”(奥さん)、“小姐”(お嬢さん)と呼んだ。このような旧中国を反映する敬語は、既に淘汰されてしまった。しかし、この三十年あまり、「改革開放」の政策を実施している為に批判されていた“先生”、“夫人”、“小姐”のような呼び方がまた、再び使われだしてきている。ただ、“小姐”に関しては風俗店の女性とイメージされるため、その呼び方は少なくなっている。代わりに最近“小妹”、“美女”の呼び方は使うようになった。

中国語では、外国人のお客さんに対して、その人の身分によって、“閣下”(閣下)、“殿下”(殿下)、“陛下”(陛下)、“总理閣下”(総理閣下)、“親王殿下”(親王殿下)、“皇帝陛下”(皇帝陛下)、“总统先生”(大統領先生) 等と呼び掛ける。

英語の場合は、“(Your) Excellency”と「閣下」は皇族・総督・大臣・大使・知事・大司教・司教のような高官・高僧に対する敬称である。他にも、“Your Highness”(殿下)、“Your Holiness”(聖下)——ローマ法王に対して、“Mr. President”(大統領閣下)、“(Your) Grace”、“(Your) Honour”や「陛下」「殿下」等の呼び掛け尊称、敬称が挙げられる。また、Sir Walter Scott(ウォルター・スコット卿)のように、称号としても使われる。これらの呼び掛け表現に似た性質のものに、lady と lord がある。“Lady Superior”(女王様)、“Lady Thatcher”(BBC

放送で英国のサッチャー前首相に対して使われていた表現)、“Lord Tennyson”(テニソン卿)のように用いられる。唯、注意すべきことは Mr., Ms., Miss などが他人に対する敬意を表すとは限らず、寧ろ自己の性別や社会的立場を示す為に使われる場合があるということである。

日本語では、呼称は全て単独では使われず、必ず名前や親族用語等の語尾についた形でのみ現われる。日本語の「さん」は老若男女すべての人に対して使える。それに対して、英語では、“Excuse me, Miss”のように、Miss は単独でも使われる。ただし、Mrs.と Ms.は名前の語頭についてのみ用いられ単独では現われない。

2. 5 職業(Professional Nouns of address)による区別

中国では相手の身分を知っている場合は「姓+職名」を添えて呼び掛け、敬意を表わすことが多い。“师傅”、“大夫”(医者)、“老师”は職業の呼称としてよく使われている。学校の教師を“老师”と呼ぶだけでなく、学問・知識の優れている人も“老师”と呼ぶ。また“司机”(運転手)、“解放军”(解放軍)、“民警”(警察、お巡りさん)、“护士”(看護婦)、“邮递员”(郵便配達人)、“售货员”(切符を売る人)、“服务员”(店員、従業員、給仕)、“列车员”(車掌)等は“同志”を添えてよく呼び掛け、これは親しさと尊敬の気持ちを表わす。しかし、他の一般労働者には、「姓+職業名」は使われない。

目上の人に対してその役職名を添えて呼びかけ、敬意を表すことが多い。政府によって授けられた地位、知識、技術などを有する人が尊敬に値しないはずはなく、その呼び方が現在でも用いられるのは当然である。例えば、“王律师”(王弁護士)、“林工”(林技師) などである。医師という意味を表す“大夫”は、性別、年齢を問わず、“医者”の敬称となる。僧侶には“师傅”が用いられる。官職身分を表す語は、直接呼びかけに使われる。構成形式としては姓+官職、或いは直接に官職を呼ぶ。例えば、“张局长”(張局長)、“李省长”(李省長)、“林经理”(林社長・部長・支配人など)、“王董”(王取締役会長)、“林总”(林社長・編集長・企業グループの首脳)などの地位名も多種用いられる。接尾辞的な“先生”と言った形式もあるが、これは“老师”(先生)よりも更に一段高い敬意を込

めて用いられる。中国では恩師に対する尊敬の念が強い。先生や師匠の奥さんに対する敬語“师母”、“师娘”がある。

日本には、「社長」、「課長」、「学部長」、「知事」のような職場での地位に関するものから、「お巡りさん」、「魚屋さん」、「電気屋(さん)」、「運転手(さん)」、「駅員(さん)」のような職種に関するもの、更に一時的な状態としての「お客さん」など、その他、「先生」、「学生さん」など非常に多岐に渡る。そしてこれらが相手に対する敬称であると同時に三人称代名詞の様な役割も果している。「日本語では職業名で呼ぶ呼称が使われるが、これは相手をその人の仕事の場の中で認識し、その人との距離を保とうとする表現である。また職業名に敬称を付けて呼ぶときは、敬称のついた分だけ、相手に親しみをもち心的距離を縮めようとしていることが多い」(井出 (1982 : 116))。

英語の場合、*position* を呼称に使うことはあまりない。人名が分かれば多くの場合それを優先させる。これは個人尊重の所為と考えられる。唯、警察官などに対しては、“*Officer*”や“*lieutenant*”など人称代名詞の代りとしてでなく、敬意を示す為に、呼びかけに使われたり、文末に添えられたりする。職業名とは、例えば“*Waiter*”である。立場については、“*Mr. Chairman*”などは比較的よく使われる。“*Governor*” (知事)、“*Mayor Smith*” (スミス市長)、“*Dean Hamilton*” (ハミルトン学部長)、“*Mr. Ambassador*” (大使)、“*General Brown*” (ブラウン将軍)等の呼び掛け尊称、敬称がある。しかし、日本語、中国語の呼びかけ敬称の「先生」、「老师」を直訳した“*Teacher!*”は英語では敬称ではなく、その用法もない。通常では

(8) “*Miss (Mr./Dr./Professor)Brown!*”(ブラウン先生!)

のように呼び掛けねばならない。

2.6 「親愛」の度合—「老」、「小」

年上の人に敬意を表す時、姓の前に“老”を付ければ、一種の敬称となる。友人や同僚などの場合や、年上の人や先輩等に親しみを込めて言う時には“老”、年下の場合は“小”を姓の前に付けて呼びあうことも多い。例えば“老李”、“小李”である。但し、二音節(二字)の姓は、口調の関係でこれらの接頭語が

付けられない。“老”は年上や先輩などによく用いるが、必ずしも対象は年上だけではない。呼び掛ける対象が 40 歳ぐらいであれば、“老+姓”は“姓+名”や職称よりもっと親しみを込めている。呼び掛ける対象が 30 歳より下であれば“小+姓”は若い人に対して親しさを表わす。姓の後に“子”を添えて、例えば“小李子”、“小朱子”等のような呼び方は若い人の愛称にもなる。しかし、目下の者は目上の人に対して“老”、“小”両方とも使わず、ただ「名字+職称」を呼ぶ。その他に“王老”、“周公”、“老同志”、“老工人”、“老干部”、“老医生”、“老前辈”（先輩）、“老农民”（老農民）、“小朋友”（小さい友達）、“小同志”などの呼び方がある。ほかに“您老”、“您老人家”、“他老人家”（あのお方）と言う敬語もある。これは一定の地位、一定の知識を持っている人に対する敬称であり、“老”は知識が多く社会経験が豊富な人と言う意味であり、“小”は若い人に対する親愛を表す語である。しかし、“老同学”、“老朋友”（古い友人）、“老首长”（元の上司）、“老领导”（老領導・昔の上司）、“老邻居”（元の隣人）等相手に親しみをもち心的距離を縮めようとしていることを表す呼びかけもある。

日本の社会では目上の人が目下の人に対して「名前+ちゃん」、「名前+君」、「名前+さん」と呼ぶが、中国では、“小+名字”、“大+名字”（身長が高い）、“老+名字”は親しみを表すと同時に尊敬の意味を添えたりや丁寧な言い方だとするのがごく普通である。これは一定の連帯感で結ばれている「仲間」の意識を反映している。ここにも「親愛」の度合が敬意の度合にそのまま転化する中国語における敬意意識の特徴の一つが窺える。

2.7 愛称(Nicknames)

愛称は、大きく二つに分けて考えることができる。一つは、個人名の一部を略したり変化させた呼び名で、もう一つは個人名とは関係のない、その人の特徴を捉えて付けた呼び名である。日本語では、前者を「略称」、後者を「あだ名」よんで、区別している。

「略称」については、日本語では「だいちゃん」や「ようちゃん」等が、英語では“Rob”や“Betty”等が挙げられる。

「あだ名」について、日本語では「(お)殿様」、「夏みかん」、「スマイル」等が、

英語では、“Hippo”(hippopotamus[かば]という本来の意味から「ふとっちょ」)、“Slim”(やせ)、“Univac”(電算機の商標名から「勉強ばかりしている学校秀才」)等がある。いずれも、実名とは関係がなく、その人の特徴からつけられた愛称で、ときには、からかいの意味を含めて呼ぶこともある。

「あだ名」は、中国語では“綽号”(綽号)という。中国人は“綽号”を使って自分の親しい人に呼び掛けることが好きだ。例えば“老黄牛”、“大诗人”(大詩人)等である。また、“小张的綽号叫‘小老虎’”(張君のあだ名は「虎ちゃん」っていうんだ)。このような“綽号”で自分の友達に呼び掛けることは友好的であるだけではなく、親しみも示す。また呼称対象に対して賛美と尊重を表わすこともある。例えば、ある人を“闲不住”(閑不住)とよぶのは彼の勤労を褒める。又、ある人を“气死牛”(氣死牛)とよぶのは彼の力がとても大きいことを褒めるわけである。

2.8 親族呼称(Kinship Terms)

親族呼称は、基本的には血縁関係や親族関係を表わす呼び方である。

日本語では、語頭に「お」が、語尾に「さん」や「ちゃん」が付いた形で現われることが多い。しかし、「かあさん」や「にいちゃん」のように、語頭の「お」が取れた形や、「おかあ」や「おねえ」のように、語尾の「さん」や「ちゃん」が取れた形で現われることもある。

中国語では、手紙を書く時、“尊敬的父母大人”などはまだ使うが、他人には自分の家族を謙称で呼んで、相手の家族を尊称で呼ぶのが普通である。

親族呼称は親族以外にも使い、親しみや敬意を表わせるが、中国語でそれらはとりわけ敬語としての意味を持つ。例えば中国のこどもたちは、お兄さん或いはお姉さんと呼ぶのがふさわしい若者を“叔叔”(おじさん—本来は父の弟)、“阿姨”(おばさん—本来は父の姉妹)と呼ぶ。これは長幼の順序が重視されるためで、相手を自分の父母と同等に扱うことにより尊敬の気持を示している。また、中年女性が“奶奶”(お婆さん—本来は祖母)と呼ばれると、何か快感を得られるようである。これは用いるべき呼称より世代を上げれば、相手を尊敬し自身を卑下することとなるという習慣による。

英語では、上位の親族に対しては Dad (お父さん)、Grandma (おばあちゃん)、Grandfather (お爺さん)、Uncle (おじさん)、Aunt (おばさん)、Grandson (孫)、Nephew (甥)、Cousin(いとこ)、Mother-in-law, Father-in-law, Sister-in-law, Brother-in-law, Son-in-law, Daughter-in-law 等の呼び掛けがある。しかし、実際の生活の中では、英語圏の人は父母、祖父祖母以外ほかの親族に対して親族名称を使わない。

表 2 中国語の呼称 (賈玉新, 1997:336-338 の表を参照した)

呼称対象	自称自謙(礼貌、権勢)	他称敬称(礼貌、権勢)	中性(平等関係)
自己 他人	吾、余、自、己、本人 長輩に対して儿子、孫子、侄、 外甥、小婿、鄙人、愚、敵人	您	你、老王、名字、姓名、同志、 女士、老师
父母、祖父、 叔、舅、兄嫂	家(父、母、尊、祖、叔、舅、 兄、嫂)亡くなたの：先(父、 母、祖、叔、姑)	令(尊、母、姐、兄、叔、舅、 嫂)、尊(公、父、兄、嫂)	我(父亲、母亲、祖母) 你(哥哥、弟弟)
妻室	賤内、老婆、内人	尊夫人、令妻	我(你)爱人、妻子、太太 夫人
弟妹	舍妹、舍弟	令妹、令弟	我(你)弟弟、妹妹
子女、婿、侄	小儿、小女、小婿、孙儿(孫)、 舍甥女、小侄、舍侄孙(侄 孫)、舍姪	令(郎、爱、侄、公孙(公孫)、 甥女、公子)	我(你)儿子、女儿
学生	晚生、学生		
师輩	卑职(卑職)	老师、教授、先生、老先生	教师(教師)
上司	卑职(卑職)	官职(官職)：李部長、陈经理 (社長)、尊长(目上の人)	姓名/名字
平輩朋友(男 性)		尊兄、贵兄、仁兄、老兄、恩 兄、大哥	名、姓名、同志
長輩	老朽(老人)、拙	李老、长者(長者)、老人家、 老大爷(老大爺)、老师傅	老李、老同志
小字輩		長対幼：贤弟(賢弟)、贤侄(賢 侄)、贤婿、小李、小季子、 小同志	名字、姓名
夫妻			名、孩子他爹、孩子他妈
女性	小女、老妇(老婦)	大姐、大娘、姑娘、阿姨、阿 妈、阿婆、大嫂、老板娘、大 妈	女同志、師傅
家	舍下(拙宅)、寒舍、陋室	尊府、贵府、府上	我家、你家
工作(仕事)	卑职(小職)	尊职(尊職)	我的工作、你的工作
处所	敝处	贵处(貴ところ)	我那儿、你那儿、我处、你处
单位(職場)	敝公司、敝校	贵公司(貴公司)、贵校、贵国	我公司、你公司
作品	拙著、拙作	大作、佳作、杰作	我的论文、我的文章
意見(意見)	愚见(愚見)、拙见(拙見)	尊意、高见(高見)	我的看法、我的意见

中国語では、上位の親族に対しては親族名称で呼び掛け、下位に対しては一般に名前呼びかける。その点は英語よりも寧ろ日本語に似ている。ただし、日本語の呼格的な親族名称が意味的に「+上位」であること、例えば、「(お)母さん」のように有標の敬称形式であるのに対して、中国語のそれは敬語であることの形態的な標識を何らもつものではない。日本では、「おじさん」、「おばさん」は、一義的には、両親の兄弟姉妹に対して用いられるが、二義的には、名前を知らない年配の男性や女性に対して使われる。しかし、日本人が老人に対して、「年取った人」と言うと、不快感を与える。何故かと言うと、「年を取る」と言う言葉は「老い」を強調することに通じるからであり、「お婆さん」、「お爺さん」と言う呼び方も嫌がられる。

イギリス人・アメリカ人なども老人に対して、「年取った人」と言うと、不快感を与える。しかし、中国語では、「お婆さん」は“老大娘、奶奶、姥姥”などの意味で、「お爺さん」は“老大爷、爷爷、姥爷”の意味である。勿論、中国語の“老”には「年を取る」の意味もあるが、主に経験・知識が多く、地位・実績があるという意味であることを強調している。つまり、若者から年を取った人への尊敬表現である。英語の場合は、このような呼びかけはない。若いと言うニュアンスを持つ「小母さん」は中国語では、“阿姨”、“婶母”、“伯母”と言う。幼稚園の子供は、自分の母と同年輩である成年の女性を“阿姨”と呼ぶ。「叔父さん」は中国語では“叔父”、“伯父”の意味で、自分の父親と同年輩の人を指す。子供が顔を合わせた年長者に対して“张奶奶”(張お婆さん)、“王叔叔”(王叔父さん)などと親族名称を発することが礼儀とされる。また、相手の職業+親族名称の呼び掛け“警察叔叔”(警察のおじさん)、“护士阿姨”(看護婦のおばさん)などもある。このように、中国語の親族呼称は実際の親族の枠を越えた領域にまで広く用いられ、挨拶語の機能を果たしている。よって、「親愛」の感が即敬意に繋がる中国人の敬語意識の一側面に過ぎないと言える。

中国語の呼称は非常に複雑であり、血縁関係、社会地位の高低、職業、性別、年齢、及び使われる場面等各種の要因に制約される。つまり、礼貌原則によって“長幼尊卑貴賤”の区別だけではなく、“内外有別”(ソトとウチの区別)のこともある。

2.9 愛情の呼びかけ(Forms of Endearment)

英語の honey、darling、dear 等は、夫婦・恋人・親子・兄弟姉妹等親しい間で使われる呼び方である。ときには my を伴って、my darling や my dear の形で現われることがある。中国語にも、このような呼びかけがある。例えば、手紙を書く時、“亲爱(親愛)的父母大人”、“亲爱(親愛)的哥哥姐姐”、恋人に対して“亲爱(親愛)的”と書いたりすることである。最近友達等親しい間で、また上司は部下にこの「亲爱(親愛)的」言葉も使われる呼び方である。しかし、日本語の愛情の手紙には、慕わしい気持ちを相手に伝えるのに、これらに当る呼び方は殆ど見当たらない。それは露骨な表現や強制的な印象を与える言い回しは避けるためである。しかし、日本語には強いていえば、「ねえ」や「ねえ、あなた」のような呼び方がある。(田中春美・田中幸子：1996)

2.10 人間関係を表わす呼び方

人間関係を表わす言葉は呼びかけとして使う。しかし、必ずしも実際の関係を表わすとは限らない。例えば、日本語では、「先輩」や「お隣さん」等の呼び方が、ここに入れられる。中国語では、“老前辈”、“师傅(師傅)”、“同学”、“同志”等である。中国では、“同志”と言う語があり、日本語の「さん」にあたる敬称として、また、人間関係の呼称として、夫婦でも、親子でも、全て“同志”と呼んでいた。“同志”と言う語は「共通の理想や事業の為に戦う人」と言う意味で、そこから特に「政治上の立場と見解が同じである人」を指すに至り、男女・年齢を問わず、普通に用いられていた。しかし、現在の中国では、“同志”を使うことが少なくなりつつある。英語ではこのような言葉は見当たらない。中国語ではウエに対する敬意ではなく、むしろヨソ即ち疎に対する敬意を表わすものであり、単独か又は姓(名)の後に接して用いる。ヨソ行きの敬称であることから、見知らぬ人物や面識のない人物を指したり呼んだりする場合、或いは普段“小・老——”で呼んでいる友人・同僚を公的な状況で指す場合等に典型的に用いられる。また、師・匠・職人と言う意味を表す“师傅”は特別な技能と経験を有する労働者や職人などの敬称となり、後輩にあたる労働者は年が若くても一定の経験を有する先輩に対して、“师傅”と呼ぶ。一般の人達

も広く労働者に敬意を込めて、“师傅”と呼ぶようになり、その使用範囲は次第に大きくなっている。例えば、自動車運転手の場合、“同志”とか“司机”と呼ばれるより、“师傅”と呼ばれるのを喜ぶ。

2. 11 親族名の応用名

英語の John Smith, Jr.(John Smith 2 世)等がこれに相当する。英語の場合、単に Junior(息子)という形で呼ばれることもある。日本語でも最近、有名人の息子のことを「長島ジュニア」等と呼ぶこともあるようだ。言語によっては相手の個人名を使うのを避けるためにこの用法をとることもある。

2. 12 抽象名詞としての呼称 (Abstract nouns of address)

これは呼び掛けられる者のある抽象品質と相関する名詞を指す。例えば英語の(your) “Excellency”, (your) “Grace”, (your) “Honor”, (His・Her) “Highness” などである。(your) “Excellency” と (your) “Honor” は日本語と中国語とも「閣下」(“閣下”) という。(your) “Highness” のような皇族を指す語は日本語と中国語とも「殿下」という。また(your) “Majesty” のような皇族を指す語は日本語と中国語とも「陛下」という。

2. 13 “美称”

中国語では、美称は主に年長者が幼少者に対して親愛の気持ちと尊重していることを示す呼称である。書き言葉の中でよく使うのは“贤”(賢) で構成している一連の美称である。例えば“贤弟”(自分の弟・年少の友人または弟子に対する敬称)、“贤姪”(甥に対する敬称)、“贤婿”(婿どの敬称) 等である。相手の子供は“公子”(息子さん)、“千金”(お嬢さん) を美称することは珍しくない。

2. 14 “婉称”(婉曲な呼称)

“婉称”は尊敬を示す呼称である。中国語では、昔は家族内の年長者に対して、“尊颜(顔)”(男女通用)、“威颜”(男性長者)、“慈颜”(女性長者)等尊敬を表

わす婉称で呼んだ。例えば、“冒犯尊顔”は“冒犯了您”(あなた様に対して失礼なことをした)と言う意味である。現代中国語ではこのような尊称はあまり使われない。

2. 15 動詞や動詞句による呼び方(Verb forms of address)

動詞や動詞句による呼び方には、卜雁(2004:317)によると、“日本語の「すみません!」「失礼ですが…」と中国語の“请问”(qingwen, お尋ねしますが…)、“劳驾”(laojia, すみませんが…)、英語の“Excuse me!”は、気遣いながら見知らぬ相手呼びかける場合によく使われる表現である。”中国語は“请问”と“劳驾”以外、“借光”という言葉もある。しかし、これらの言葉は自分の何かのために人を呼ぶ場合によく使われる。例えば：

(9) “劳驾, 请让让路。”(すみません、道をあけてください。)

(10) “借光, 借光。”(ちょっと失礼、通らせてください。)

2. 16 “転用される呼称”(defining addresses by expressing the addresses relation to another person)

この呼び方は相手の名前を直接で呼ぶことを避けるために使われる表現である。例えば、普段日本人の家庭内では、夫が妻のことを「おかあさん」ないし「ママ」、妻が夫のことを「お父さん」ないし「パパ」、いわゆる家庭構成上の役称で呼び掛ける仕方がある。しかし、相手との相互関係を重視する中国人の家庭では、このような呼び方は絶対にせず、普段相手の名前を直接で呼ぶか、或いは間接で“孩子他妈”(こどものおかあさん)、“孩子他爸”(こどものお父さん)と呼ぶのである。家庭外の他人には、“小明他妈”(小明というこどものおかあさん)、“莉莉的爸爸”(莉莉というこどものお父さん)のように相手を明確に示す呼び方をする。

3. 日本語、中国語、英語の呼称の対照

以上日本語、中国語、英語の呼称を考察した。文化が異なることによって

言語の呼称が異なることが分かる。日本語、中国語、英語の呼称は次の種類にまとめることができる。

表3における46種類の呼称の中で、日本語は23種、中国語は36種、英語は16種の呼び方がある。中国語の呼称が一番多くて、日本語、英語に比べて遥かに複雑となっていることが分かった。呼称に関わる人間関係は“上下長幼尊卑”或いは“権勢”と“平等”等で概括することが判明した。しかし、個人同士の人間関係の相違や個性の違いで、呼び掛ける言葉が一定ではない。呼び掛け語を用いる時、気分の違いや場合の違い、さらに等級と親疎関係の相違も加わり、その上“礼”(貌)を特に重んじる。これは中国語の“卑己尊人”の礼貌原則である。ところか、一方では同年輩・朋友・夫妻・兄弟姉妹或いは同僚の関係に対して現代社会は“平等”に向けて転換されつつある為、伝統的な長幼有序はだんだんと消失している。しかし、ある場面では基本的に“権勢”関係にふさわしい敬語等を使用する傾向を偏えている。

表3 日本語、英語、中国語の呼称の比較

構 成	日本語	中国語	英語
敬称 (Mr.)+姓、	×	×	◎
敬称 (Mr.)+官職、称号 (Chairman)	×	×	◎
称号 (Professor)+姓	×	×	◎
姓 (呼び捨て)	◎	×	◎
姓+官職、称号 (先生)	◎	◎	×
姓+敬称 (さま・さん、同志)	◎	◎	×
姓+老	×	◎	×
姓+親族称号 (“李大爷”・“王大娘”等)	×	◎	×
姓名+敬称 (“王芳女士”・“李井先生”)	×	◎	×
名 (呼び捨て)、ニックネーム	◎	◎	◎
名+敬称 (さま・さん・ちゃん、“小平同志”)	◎	◎	×
名+官職、称号 (先生)、職業	◎	◎	×
小+姓	×	◎	×
小+名	×	◎	×
名+名	×	◎	×
老+敬称・官職・称号・親族・職業	×	◎	×
老+姓、大+姓	×	◎	×
第二人称敬称“您”	×	◎	×

第三人称敬称 (あのお方・あちら) (“他老人家”)	◎	◎	×
“您”+敬称 (“您老人家”)	×	◎	×
敬意を持って人を数える量詞“位”+敬称 (“各位先生”)皆さん(方)	×	◎	×
官職、称号 (社長、先生)	◎	◎	◎
官職、称号+敬称 (社長さん)	◎	◎	×
職業名 (運転手)	◎	◎	◎
職業名+敬称 (運転手さん)	◎	◎	×
職業名+親族名称 (“警察叔叔”)	×	◎	×
Your/Their/His/Her+敬称 (Majesty)	×	×	◎
Sir, ma'am madam など (先生、夫人、女士)	○	◎	◎
Father (+姓)	×	×	◎
Sister (+religious name)	×	×	◎
親族名称 (母親・父親)	◎	◎	◎
親族敬称 (令尊・令愛)	◎	◎	×
親族謙称 (家内・愚妻)	◎	◎	×
親族名称+敬称 (父上、“父母大人”)	◎	◎	×
親族敬称+敬称 (“令尊大人”)	×	◎	×
“您”+親族名称 (“您父母”)	×	◎	×
ご+親族敬称 (ご尊父)	◎	×	×
美称 (“賢弟”、“賢姪”、“賢婿”)	×	◎	×
婉称 (“尊顔”(通用)、“威顔”(男性長者)、“慈顔”(女性長者))	×	◎	×
親族名の応用名称	◎	×	◎
お・ご+親族名称 +さん・ちゃん (お母さん)	◎	×	×
人間関係を表す呼びかけ(先輩 (“前輩”)、“同志”)	◎	◎	×
愛情の呼びかけ	◎	◎	◎
愛称	◎	◎	◎
動詞形に表された呼び方	◎	◎	◎
「転称」	◎	◎	×

注) ◎：よく用いる ○：時に用いる ×：用いない

英語圏は文化の性向、社会構造、人間関係等が中国、日本と異なっているので、呼称の使用とその意義に関する解釈も自然と隔たりがある。少なくとも中国社会の呼称のように種類が多くて複雑であるということはない。これは英語圏が一般的に血縁関係を軽視する伝統的文化を持っていることを反映している。具体的に言うと、主な相違は呼び掛ける時相手の名を直接に呼ぶか、それとも「姓+官職、敬称、職業、親族名称」の方式を用いるかという相違である。英語圏が地位や職業の高低に関わらず、部下、若者及び家庭内の

子供達つまり下の人が自分の上司、年長者、教授、父母等は直接的に名を呼ぶことが好きなのは、社会的地位の相違を消したい強烈な願望があり、人間関係がますます“平等”に向かっていることを示す。この点は中国人から見ると、“不懂礼貌”躰が足らず礼貌を知らず、失礼なことと思いがちとなり、特に、年下、幼小者が年輩、年長者に対して直接的に名前を呼び掛けに用いることは理解すらできない。というのは、養老、尊老は中国の伝統的な美德だからである。この尊老の文化に加え、知識、権威、資格、地位はよく年長者と結びつけられる。言語のコミュニケーションに存在する“老”の字は尊称として突出した一例である。中国人にとって礼儀正しく丁寧な呼び掛けに用いる親族名称の転用、「老+敬称、官職、職業、職務」、「姓+老」等は英語圏にとって、逆に失礼な呼称になる。英語圏の高度な技術の発展と激しくなりつつ個人競争の背景に、老は無用の価値観であり、「老」の字は尊称とは思われないのだろう。

日本語は中国語に似て敬称、謙称が沢山あるが、一連の敬語体系があるため、呼称は丁寧表現に重要な位置を占めておらず、中国語のような豊富で複雑な呼称体系は存在していない。日常生活で相手に敬意を表わす時は、呼称の使用ではなく、敬語表現を主に使う。例えば日本語の「おはようございます」はとても丁寧な挨拶言葉であるが、中国語では、単に“早上好！”より呼称を使って、“李老师（先生）／王部长（部長）／周总（社長）／曹阿姨，您早！／早上好！”の方がもっと丁寧である。例えば道を尋ねる時も、呼称を使った方が相手はより喜んで教えてくれるのである。

(11) “劳驾，老大爷，请问到日本大使馆走这条路，对吗？”

“Excuse me. Grandfather, is this the right way to the Japanese Embassy?”
(すみません、お爺さん、お尋ねしますが、日本大使館へはこの道でよいですか。)

また“您”は中国語の第二人称であり、日常生活によく使われる。例えば、

(12) “承蒙您如此盛情款待，实在不敢当。”(こんなにおもてないしいただいては、却って恐縮いたします。)

“您”は一般的に、地位が高い人や親しくない人に呼び掛ける時に用いられ

る敬語である。地位の高い人が地位の低い人に呼び掛ける時に用いると、特殊な敬意を表わすことになる。一言でいえば、呼称は中国語における丁寧表現の一つの特色であろう。

一方、辻村(1992: 551)によると、

「現代日本語における人称代名詞は、特に呼び掛けに用いられる場合、「あなた」「あんた」「君」「お前」「貴様」等の言葉にしても、その待遇価値は決して高くないようである。

それに対して、地位名、職名等が、尊敬関係に用いられることは、社長、部長、親方等の言葉が、いずれもそのまま相手に対して敬意を持った呼び掛けに用いられると言う事実からも明らかであろう。」とある。

4. おわりに

以上日本語、中国語、英語の呼称の特徴を比較対照して、検証した。丁寧さを表わす表現は敬語だけではなく、呼称、挨拶、決まり文句も重要な働きを持つ手段である。また呼称、挨拶、決まり文句は言語コミュニケーションの潤滑油といえる。

伝達行為は、伝えたい情報があり、またある情報を伝えてもらいたいという動機によって起こる。また、情報自体は知的なものと情的なものに大きく分けられる。それは心の働きの性質に基づいてははっきり区分できるが、現実にはおおよそその区分しかできず、多くの場合は情的な言語使用において知的な情報伝達がなされている。その際、情的側面の強い表現によって知的伝達の強化を図ることがある。また比喩による表現は、情に訴えるというよりはむしろ知的な理解を助けるためのものとして捉えられる。特に、具体化された比喩の故に受け手は知的伝達を受けるとともに情的刺激も感じるのである。

現代社会は情報社会といわれるように、日常生活に沢山の情報が存在する。情報自体が知的なものと、情的なものに大きく分けられるから、受け手は情報をそのまま受けることなく、よく理解した上で、受けなければならない。すなわち、区別しなければならない。ここで東照氏が挙げた次の例（東照

二,1994 : 86-88)を見て見る。

例え建物に入る際、自分の手が荷物で一杯のため、他の人にドアを開けてもらわなければならないとする。見知らぬ人に丁寧に頼むにはどうしたらいいだろうか、答は仮定法過去を使うことである。

(13) A : “*Excuse me, if you could hold the door open for me, I would really appreciate it.*”
(すいません、もしドアを開けて下さると、大変助かるのですが。)
(对不起、能帮我打开门吗？我会很感激您的。)

B : “*No problem.*”(もちろんですよ。)(没问题。)

こう丁寧に言われては、断る人はまずいないだろう。ところが、もし次のように丁寧表現ぬきで言ったら、いい結果にはならないだろう。

(14) A : “*Excuse me, open the door for me.*”
(すみません、ドアを開けなさい。)(对不起，打开门。)

B : “*You have arms! Do it yourself!*”
(手があるじゃないか！自分でしたらどうだ！)(你不是有手吗？自己打。)

決まり文句「すいません」と言ったからといって、人に命令口調で頼みごとをしても誰も手伝ってくれない。中国語では、この場合は必ず“老先生、先生、大妈、小朋友”等呼称を添える。敬意を表わす呼称で呼び掛けると相手は喜んで手伝ってくれることになる。以上を見ると、言語を伝達するとき、情報の区別、情報対象の区別、言葉の丁寧度の選択、伝達の間などはとても重要な要因であり、それらを考慮して扱わなければならないことが分かる。

以上の対照研究によって、いくつかの相違点を明らかにした。例えば、中国語の場合は、呼称、特に親族名称の転用、色々な挨拶と第二人称の敬語“您”がよく使われる。英語では First name 等の呼称がよく使われる。

なお、異なる言語間において、一方の言語では丁寧であり、他方ではそうでない場合もある。例えば、英語では First name で親、先生を呼ぶことは親密の表現であるが、日本人、中国人には違和感があり、失礼な呼称と思われる。

対人関係において、間接的な言い回し、敬意を表わす呼称、挨拶、決まり

文句は、どの言語でも共通のものと思われる。言語行動だけでなく、それに伴う態度・姿勢といったものも重要である。しかし、どんな時に、どのような方法を選ぶか、そしてその理由は何かということについては、研究の結果、個人差、文化、社会習慣、性別による差がよく見られた。

このように、外国語学習や翻訳、異文化間コミュニケーションなどの場で、異なる言語間において、それぞれの言語に類似点がどのように確立されているか、それぞれの言語の言葉の間に存在する相異や対応関係がどの点で異なるのかを認識していくことは重要となる。

この種の研究は、異文化理解の手がかりになるばかりでなく、外国語をマスターするための実用的な知識を与える点でも、今後、いっそうの研究が期待される。

参考文献

- Braun, Fiederike. 1988. *Terms of Address : Problems of patterns and usage in various languages and cultures*. Mouton de Gruyter.
- Brown, R. and Ford, M. 1964. *Address in American English* [A]. In D.Hymes (ed.). *Language in Culture and Society: A Reader in Linguistics and Anthropology*[C]. New York, Evanston, and London: Happer&Row, Publishers, 234-244.
- 東 照二 1994 『丁寧な英語・失礼な英語』 研究社出版
- 大杉邦三 1982 『英語の敬意表現』 大修館書店
- 井出祥子 1982 「待遇表現と男女差の比較」『日英語比較講座 第5巻 文化と社会』 大修館書店
- 国広哲弥 1990 「「呼称」の諸問題」『日本語学』9 明治書院
- 黄華新・朱法貞 1995 『現代人際関係学』 浙江大学出版社
- 祝曉瑾 1990 「漢語称呼研究—一張社会語言学的称呼系統図」『北京大學學報 英語語言文學專 刊』
- 鈴木孝夫 1973 『ことばと文化』 岩波新書
- 蘇徳昌 1982 「中国語—日中の呼称—」『講座日本語学 12 外国語との対

照Ⅱ』明治書院

遼永順 1985 「称呼语及其使用」『語言教学与研究』2

贾玉新 1997 『跨文化交际学』 上海外语教育出版社

田中春美・田中幸子 1996 『社会言語学への招待』 ミネルヴァ書店

陳露 2002 「現代日中両言語における親族呼称の対照研究」 千葉大学『社会文化科学研究』第5号

ト雁 2004 「呼称におけるポライトネス心理考察」『淑徳大学社会学部研究紀要』第38号